

第2学年2組国語科書写学習指導案

日時 令和5年10月26日(木)第5校時

指導者 神谷 由依 場所 2の2教室

- 1 単元名 「三本の指を上手にを使って書き方名人になろう」
～書写の鍵を学ぶことを通して～

2 単元の目標

- ・正しい姿勢や鉛筆の持ち方を知り、三本の指を使って基本の点画を意識して文字を書くことができる。(知識・技能)
- ・書写の鍵である「止め」「折れ」「はね」「払い」「反り」「曲がり」を書くときの指の使い方を考えることができる。(思考・判断・表現)
- ・字を丁寧に書くことの大切さやよさに気づき、日常生活を通して、進んで丁寧に字を書こうとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の構想

本学級の子どもは、足が机から出ていたり、背筋が曲がっていたりと、文字を書くときの正しい姿勢がとれない子が多い。また、毎日書いている連絡帳の文字を丁寧に書かず、見返したときに字が「読めない」という声を聞くことがある。在籍33名中5名は正しく鉛筆を持つことができているが、28名は握り持ちやはさみ持ち、かぶせ持ちなど間違った持ち方をしている。自分の手元が見えておらず、「払い」が「はね」のようになっていたり、「止め」になっていたりする。鉛筆を持つ際の三本の指のバランスや力のかけ方が分かっていないからである。そこで、正しい姿勢や鉛筆の持ち方を身に付けて、文字を丁寧に書こうとする意欲を高めるとともに、そのよさに気づき、日常生活でも意識して書こうとする態度を養いたいと考え、本単元を構想した。

本単元は、文字を書くときの正しい姿勢や鉛筆の持ち方を理解し、その上で「止め」「折れ」「はね」「払い」「反り」「曲がり」を書くときに、鉛筆を支えている三本の指(親指・人差し指・中指)のうち、どの指を意識して動かしていくとよいのかについて考え、話し合う中で日常生活に生かしていくことを目標とする。また、水筆を使うことで、「止め」「折れ」「はね」「払い」「反り」「曲がり」の運筆を体感し、硬筆に生かしていくことができるようにする。子どもはこれらの活動を通して、正しい姿勢で文字を丁寧に書く方法を学び、習得することで、生活や学習に活用しようとするであろう。よって、本単元を学ぶことは、意義のあることと考える。

単元を通して、正しい姿勢や鉛筆の持ち方を知り、日常生活に生かしていくための授業を実践する。導入では、子どもが文字を丁寧に書こうとする意欲をもてるようにする。運動会の招待状を書くことを提示し、次に、「止め」「折れ」「はね」「払い」「反り」「曲がり」を書くためには、三本の指の中でどの指を使うと鉛筆が動かしやすくなるのか、水筆を使いながら考えていく。また、水筆を用いることによって、終筆の違いや筆記具の運び方が体感でき、見た目にも分かりやすい。点画の始筆から送筆、終筆までの一連の動きを繰り返し練習することで、硬筆での運筆の仕方の定着へとつながる。さらに、「月」はまっすぐ下に向かった後に途中から左へ向かって「払い」を書くなどを意識し、それぞれの文字がもつ由来やイメージを伝える。「止め」は「びたっ」、「はね」は「すうっ」といった、オノマトペを用いて子どもにも理解しやすいように示し、あらゆる五感を使って習得していく。これらの活動を経て、「止め」「はね」「払い」などの学んできたことを生かしながら、心を込めて丁寧に文字を書こうとする姿を期待する。

4 単元の指導計画（8時間完了）

学習活動	学習目標	時数
<p>家族に向けて運動会の招待状を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の鉛筆の持ち方や姿勢を動画で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を書くときの正しい姿勢や鉛筆の持ち方を学び、意識して取り組むことができる。 	1
<p>「止め」を書くときに使う指を知り、意識して文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 横画や縦画で「止め」のある文字を書くとき、三本のどの指を使って書けばいいかを考える。 鉛筆→水筆→鉛筆の順で自分の文字の変化を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「止め」を書くために、横画は親指、縦画は人差し指を使うことを学び、三本の指のバランスや力のかけ方を意識して文字を書くことができる。 水筆を使うことを通して、「止め」の感覚を理解することができる。 	2
<p>「折れ」を書くときに使う指を考え、意識して文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「折れ」のある文字を書くとき、三本のどの指を使って書けばいいかを考える。 鉛筆→水筆→鉛筆の順で自分の文字の変化を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「折れ」を書くために、指の使い方が親指から人差し指へと変化していくことを学び、三本の指のバランスや力のかけ方を意識して文字を書くことができる。 水筆を使うことを通して、「折れ」の感覚を理解することができる。 	3
<p>「はね」を書くときに使う指を考え、意識して文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「はね」のある文字を書くとき、三本のどの指を使って書けばいいかを考える。 鉛筆→水筆→鉛筆の順で自分の文字の変化を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はね」を書くために、中指を使うことを学び、三本の指のバランスや力のかけ方を意識して文字を書くことができる。 水筆を使うことを通して、「はね」の感覚を理解することができる。 	4
<p>「払い」を書くときに使う指を考え、意識して文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「払い」のある文字を書くとき、三本のどの指を使って書けばいいかを考える。 鉛筆→水筆→鉛筆の順で自分の文字の変化を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 水筆を使うことを通して、「払い」の感覚を理解することができる。 「払い」の向きの違いを見つけ、三本の指のバランスや力のかけ方を意識して書くことができる。 	本時 5 / 8
<p>「反り」を書くときに使う指を考え、意識して文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「反り」のある文字を書くとき、三本のどの指を使って書けばいいかを考える。 鉛筆→水筆→鉛筆の順で自分の文字の変化を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「反り」を書くために、指の使い方が人差し指から中指へと変化していくことを学び、三本の指のバランスや力のかけ方を意識して文字を書くことができる。 水筆を使うことを通して、「反り」の感覚を理解することができる。 	6
<p>「曲がり」を書くときに使う指を考え、意識して文字を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「曲がり」のある文字を書くとき、三本のどの指を使って書けばいいかを考える。 鉛筆→水筆→鉛筆の順で自分の文字の変化を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「曲がり」を書くために、指の使い方が親指→人差し指→親指→中指へと変化していくことを学び、三本の指のバランスや力のかけ方を意識して文字を書くことができる。 水筆を使うことを通して、「曲がり」の感覚を理解することができる。 	7
<p>運動会に来てくれた感謝の手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しい鉛筆の持ち方、姿勢を意識して文字を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んできた姿勢、鉛筆の持ち方、文字の書き方を意識して書くことができる。 	8

<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに書いた文字と見比べ、上達したところや、それぞれの文字のポイントを確認する。 		
---	--	--

5 本時の学習 (5 / 8)

(1) 目標

- ・「払い」を書くときに使う三本の指のバランスや力のかけ方を意識して書くことができる。 (知識・技能)
- ・「払い」の種類によって、指の使い方が違うことに気付くことができる。 (思考・判断・表現)

(2) 予想される子どもの姿

① 授業始めの子ども

それぞれの漢字を丁寧に書く子は多いが、「払い」で使う指を意識して書く子は少ないと予想される。

② 授業を経ての子ども

「払い」の練習について水筆を用いて行うことで、授業の最後には、「払い」のために使う指を意識して書くことができるようになることを期待する。

(3) 準備

- ・教師：ワークシート、「払い」のある文字3種 (手・木・月)
- ・子ども：水筆、水書用紙

(4) 学習過程

学 習 活 動	教師の支援・留意点	時間
1 前時の振り返りを聞く。 ・「はね」を書くときは、人差し指で書いて、最後だけ中指を使うことが分かった。	・授業の最後によりよい振り返りが書けるように、前時に具体的に書かれているものを意図的に選び、確認する。	3
2 本時で取り扱う漢字3種(手・木・月)を鉛筆でワークシートに書く。	・本時を通して、これまでは「払い」を意識できていなかったことに気付けるように、文字の見本ではなく、3種の文字に関するイラストを提示して、自分で漢字を書く。	6
3 手・木・月を「払い」の向きが違う形で提示し、それぞれの「払い」がどの向きになるのかを考える。	・「払い」の向きの違いを理解し、意識できるように、「払い」の向きが違う漢字を提示する。その後、子どもを指名し、正しい「払い」の向きに直す場を設ける。	10
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「払い」を書くときはどの指を使えばいいのだろうか。 </div>		
4 「払い」で使う指を考え、意識して文字を書く。 (1) 水筆を使って「払い」の練習をする。 ・「手」は人差し指を使うかな。 ・「月」は人差し指と、中指を使えばいいよ。 (2) 使う指について全体で確認をし、再度水筆で「払い」の練習をする。 (3) 鉛筆でワークシートに3つの漢字を書く。 ・授業の最初に書いたときよりも「払い」の向きに気をつけて書けたよ。 ・鉛筆でも最後に「すうっ」と書け	・「払い」を書くときに使う指を見つけられるように、水筆を使用する時間を設ける。 ・「払い」の感覚が分からずに困っている子については、手を添えて一緒に書き、「払い」の方向や運筆の感覚を確認できるようにする。 ・「払い」の向きが違うことで、意識する指も少しずつ違ってくることが分かるように、「手」は「左横にすうっ」「月」は「まっすぐ書いて途中からすうっ」のように、言葉で表す。 ・左利きの子が文字を書きやすいように、おへそより少し左側に書く升目が	

<p>たよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手」の「払い」が横に短く書けたよ。 <p>5 最初に書いた字と最後に書いた字を見比べながら、授業の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は「払い」の向きに気をつけて書くことができた。 ・これからも「払い」に気をつけて書こう。 	<p>きているかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の自分のがんばりに気付くことができるように、最初に書いた字と最後に書いた字を見比べる時間を設ける。また、姿勢や鉛筆の持ち方、「払い」の向きに気をつけて書くことができたかを自己評価する場を設定する。 <p style="text-align: right;">＜努力と強い意志＞</p>	<p>3 8</p> <p>4 5</p>
---	--	-----------------------

(5) 評価 (評価観点：知識・技能)

- ・「払い」を書くときに使う三本の指のバランスや力のかけ方を意識して書くことができたか、ワークシートに書いた文字を見て判断する。 (知識・技能)
- ・「払い」の種類によって、指の使い方が違うことに気付くことができたかを、ワークシートの振り返りを見て判断する。 (思考・判断・表現)